

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2014-100135

(P2014-100135A)

(43) 公開日 平成26年6月5日(2014.6.5)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
AO 1 K 91/047 (2006.01)	AO 1 K 91/04 C	2 B 3 0 7
AO 1 K 91/03 (2006.01)	AO 1 K 91/04 Z	
AO 1 K 91/06 (2006.01)	AO 1 K 91/06 B	
AO 1 K 93/00 (2006.01)	AO 1 K 93/00 Z	
AO 1 K 95/00 (2006.01)	AO 1 K 95/00 Z	

審査請求 有 請求項の数 4 O L (全 21 頁)

(21) 出願番号	特願2013-49667 (P2013-49667)	(71) 出願人	305051886
(22) 出願日	平成25年3月12日 (2013.3.12)		泉 寛治
(62) 分割の表示	特願2012-255280 (P2012-255280) の分割		広島県広島市安佐北区落合南1-31-34
原出願日	平成24年11月21日 (2012.11.21)	(72) 発明者	泉 寛治
			広島県広島市安佐北区落合南1-31-34
		Fターム(参考)	2B307 EB01 EB06 EB08 EB22 EB30 GA20 HA01 HA09 JA01

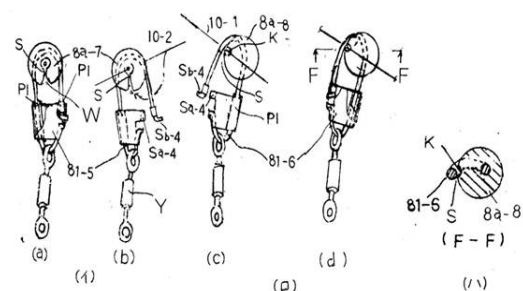
(54) 【発明の名称】 エダスのエダス着脱自在具。

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 投げ竿を用いた底物魚釣り と 上物釣りを一本の投げ竿で狙える釣り方法及び釣り具を提供する。

【解決手段】 底物魚を釣る、錘とハリスと針を有する底物魚釣り仕掛けを道糸10-1、10-2の先端部に取り付け、上記底物魚釣り仕掛けの先端部から投げ竿方向に向かって、道糸10-1、10-2の道糸軸線方向に調節可能に固定されたエダス止め体を備えた釣り具を用いて、投げ竿で水中に投入後、後付けで着脱自在具と係止具を有するエダスを、上記道糸10-1、10-2に取り付け、上記エダスの係止具に上物釣り餌を取り付け海中に投入し魚信を得る、底物魚と上物魚を一本の投げ竿で狙える釣り方法と、上記釣り方法を可能にする釣り具のエダスのエダス着脱自在具8a-7、8a-8を含む。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

仕掛けを投げ竿で投入した道糸に取り付けるエダスのエダス着脱自在具あり、前記エダスはエダス着脱自在具と、より戻しと、ハリスと、上記枝ハリスの先端部に取り付けた係止具をもつて、主構成としており、

上記エダス着脱自在具には、道糸への着脱自在部と道糸通糸部を設けており、

上記道糸にはエダス止め体を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具を有するエダスは、道糸の上記エダス止め体から海表面間を遊動自在に係止する物であり、上記エダス着脱自在具は道糸着脱構造と道糸通糸部を有する玉体で構成され、上記道糸着脱構造又は道糸通糸穴を玉体の略中心より偏芯させて設けており

、
上記道糸通糸穴から道糸が抜け出ても上記エダス着脱自在具で道糸に係止される構造にしておる事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具。

【請求項 2】

仕掛けを投げ竿で投入した道糸に取り付けるエダスのエダス着脱自在具であり、前記エダスはエダス着脱自在具と、より戻しと、ハリスと、上記枝ハリスの先端部に取り付けた係止具をもつて、主構成としており、

上記エダス着脱自在具には、道糸への着脱自在部と道糸通糸部を設けており、

上記道糸にはエダス止め体を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具は上記エダス止め体から海表面間を遊動自在に係止する物であり、更にエダス着脱自在具は上記道糸通糸部から道糸が抜け出ても道糸に係止出来る構造にしており、

上記エダス着脱自在具は線材体を主材とした事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具。

【請求項 3】

仕掛けを投げ竿で投げた道糸に取り付けるエダスであり、

上記エダスはエダス着脱自在具部と錘とより戻しとハリスと先端部に取り付ける釣り針を主構成としており、

上記エダス着脱自在具は線材体と、道糸通糸穴と道糸着脱構造を有する中駒で構成されており、

上記道糸通糸穴から道糸が抜け出ても上記エダス着脱自在具で道糸に係止される構造にしておる事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具。

【請求項 4】

仕掛けを投げ竿で投入した道糸に取り付けるエダスのエダス着脱自在具であり、前記エダスはエダス着脱自在具と、より戻しと、ハリスと、上記枝ハリスの先端部に取り付けた係止具をもつて、主構成としており、

上記エダス着脱自在具には、道糸への着脱自在部と道糸通糸部を設けており、

上記道糸にはエダス止め体を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具は上記エダス止め体から海表面間を遊動自在に係止する物であり、更にエダス着脱自在具は上記道糸通糸部から道糸が抜け出ても道糸に係止出来る構造にしておる事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

鰈、キス、いしもち等の底物魚を投げ竿で釣る一般的に行われている釣法に、上物魚を一本の投げ竿で同時に狙える釣法及びその釣り具、関する技術である。

【背景技術】

【0002】

10

20

30

40

50

針に餌となる、いそめ、あけみ貝、しゃこ、等を付けた底物魚釣り仕掛けを投げ竿で水中に投入し、あたりを待つ底物魚釣り釣法。

別の投げ竿で、針に餌となる、いそめ、あけみ貝、しゃこ、小魚等を付け数m上に浮きを付けて、あたりを待つ釣法が一般的に行われている上物魚釣り釣法。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献1】特願2012-090806

【特許文献2】実登3117183

【特許文献3】特開2007-089526

10

【0004】

すずき（はね）ぶり（はまち、）さわら、かんばち、ひらめ、しまあじ、等の、沿岸回遊大型魚の、泳がせ釣法に、関するもので、道糸の一端の先端に錘を付け、他端に向かって順に浮子、浮き止め具、枝ハリス止め体を付け、上記釣り具を投げ竿にて投入後、後付けで着脱自在具（8a）と係止具（8c）を有する枝ハリス（8）を上記道糸に取り付け、上記係止具（8c）に生餌を取り付け投入して魚信を待つ釣法及びその釣り具に関するもの（例えば特許文献1）があり本願発明は鰈、キス、いしもち等の底物魚を釣るのに、大多数の人が行っている釣法に、この発明技術のエダス（8）を付加した物である。

スプーンに不規則な動きをさせると、低速では理想の動きをしていますが、高速になるとスプーンそのものの回転が始まり、大きな糸よれの原因になっていたものを、低速、高速でも糸よれの原因となる回転を極力抑えられる物（例えば特許文献2）がある。

20

主流となっているルアーは、ラインが引かれることによりルアーが概ね引かれる方向に泳ぐ。これに対し、このルアーでは、体側部が水受け面なので、ルアーは、ラインに対して横方向に泳ぐもの（例えば特許文献3）がある。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

鰈、キス、いしもち等の底物魚を一本の投げ竿で釣る一般的に行われている釣法で、同時に上記一本の投げ竿で上物魚を狙える釣法及びその釣り具を発明する事が課題である。

【課題を解決するための手段】

30

【0006】

第一の発明は仕掛けを投げ竿（11）で投入した道糸（10）に取り付けるエダス（8）のエダス着脱自在具（8a）であり、前記エダスはエダス着脱自在具と、より戻し（Y）とハリス（8b-1）と先端部に取り付ける釣り針（8c）を主構成としており、上記エダス着脱自在具には、道糸（10）への着脱自在部と道糸通糸部（H）を設けており、

上記道糸にはエダス止め体（7）を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具（8a）を有するエダスは、道糸の上記エダス止め体（7）から海表面間を遊動自在に係止する物であり、

上記エダス着脱自在具は道糸着脱構造と道糸通糸部（H）を有する玉体（もしくは円盤体）で構成され、

40

上記道糸着脱構造又は道糸通糸部（H）を玉体（もしくは円盤体）の略中心より偏芯させて設けており、

上記道糸通糸穴から道糸が抜け出ても上記エダス着脱自在具で道糸は係止される構造にしておる事を特徴とする、エダスのエダス着脱自在具を提供する（8a-6, 8a-8, 8a-10, 8a-10a）。

第二の発明は仕掛けを投げ竿（11）で投入した道糸（10）に取り付けるエダス（8）のエダス着脱自在具（8a）であり、前記エダスはエダス着脱自在具（8a）と、より戻し（Y）と、ハリス（8b-1）と、上記枝ハリスの先端部に取り付けた係止具（8c）をもつて、主構成としており、

50

上記エダス着脱自在具（８a）には、道糸への着脱自在部と道糸通糸部（H）を設けており、

上記道糸にはエダス止め体（７）を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具は上記エダス止め体から海表面間を遊動自在に係止する物であり、更にエダス着脱自在具（８a）は上記道糸通糸部（H）から道糸（１０）が抜け出ても道糸に係止出来る構造にしており、

上記エダス着脱自在具は線材体を主材とした事の特徴とする、エダスとエダスの着脱自在具を提供する（８a-4, 8 a-5, 8 a-6, 8 a-9）。

第三の発明は仕掛けを投げ竿で投げた道糸（１０）に取り付けるエダス（８）であり、

上記エダスはエダス着脱自在具部（８a）と錘（８e）とより戻し（Y）とハリス（８b-1）と先端部に取り付ける釣り針（８c）を主構成としており、

上記エダス着脱自在具は線材体と、道糸通糸穴（H）と道糸着脱構造を有する中駒（８a-p）で構成されており、

上記道糸通糸穴から道糸が抜け出ても上記エダス着脱自在具で道糸に係止される構造にしておる事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具（８a-12）を提供する。

第四の発明は仕掛けを投げ竿（１１）で投入した道糸（１０）に取り付けるエダス（８）のエダス着脱自在具（８a）であり、前記エダスはエダス着脱自在具と、より戻し（Y）と、ハリス（８b-1）と、上記枝ハリスの先端部に取り付けた係止具（８c）をもつて、主構成としており、

上記エダス着脱自在具には、道糸（１０）への着脱自在部と道糸通糸部（H）を設けており、

上記道糸にはエダス止め体（７）を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具は上記エダス止め体から海表面間を遊動自在に係止する物であり、更にエダス着脱自在具は上記道糸通糸部（H）から道糸が抜け出ても道糸（１０）に係止出来る構造にしておる事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具を提供する（８a-2, 8 a-7, 8 a-8, 8 a-9, 8 a-11, 8 a-13）。

【発明の効果】

【0007】

底物魚と上物魚を狙うのには、二本の投げ竿と底物魚用仕掛けと上物魚用仕掛けと、二本分の釣るスペースが必要であったが、一本の投げ竿と、一本分の釣るスペースで、釣りが出来るように成った。

【0008】

この釣法の以前に発明した、特願2012-090806の「泳がせ釣り釣法」の試釣を一文の波止場で行っていたのを、遠くの地続きの波止場で、見ていた人が「見かねて作った」仕掛けを使って、数匹釣れると、3週間後の休日には、5～7m間隔で竿が立つ程の

「フィーバー」となり、近くの釣り具店は今まであまり売れなかった大物釣り具が品切れになる程、投げ込み釣りが9割以上を占める様になった。

この釣法も早く実現出来る仕掛けが発売されると、同様の状態になる。

【0009】

浮き釣りにと底物魚と2～3本同時に扱え、Total釣果は少なくとも1割は上がる。

【図面の簡単な説明】

【0010】

【図1】（イ）エダス着脱部とスナップ部を有する着脱部の一体型8a-7のタイプ図。

（ロ）エダス着脱部とスナップ部を有する着脱部の一体型8a-8の玉体タイプ図。

（ハ）同上図の8a-8のタイプのF-F断面図。

【図2】（da）8a-8のタイプのエダス着脱部の玉体を円板体にした8a-10のタイプ図
（ca）同上スナップを開口した図
（ca-2）同上図のF-F断面図

【図3】（ea）8a-7のタイプのエダス着脱部の玉体を六角柱にした8a-7のタイ

10

20

30

40

50

ブ図 (f a) 同上スナップを開口した図。
断面図

同上図の F a - F a

【図 4】 (イ-1) エダス着脱部のスナップ部を閉止し、線材で構成した 8 a-9 のタイプ図。 (イ-2) エダス着脱部のスナップ部を開口し、線材で構成した 8 a-9 のタイプ図。 (ロ-1) エダス着脱部のスナップ部を閉止し、線材で構成した 8 a-10 の玉体タイプ図。 (ロ-2) エダス着脱部のスナップ部を開口し、線材で構成した 8 a-10 の玉体タイプ図。 (ハ-1) エダス着脱部のスナップ部を閉止し、線材で構成した 8 a-11 の玉体タイプ図 (ハ-2) エダス着脱部のスナップ部を開口し、線材内に道糸を入れた図。 (ホ) エダス着脱部のスナップ部を閉止し、線材で構成した 8 a-10 の四角立法体タイプ図。

【図 5】 (イ) 着脱自在のエダス止め具 (7 a b) の略円板状の弾性性状を有する樹脂製で円周外面にヒンジ部と弾性ロック部を持つタイプの開口状態図。 (ロ) 同上弾性ロック部噛み合う直前図。 (ハ) 同上弾性ロック部がロックした図 (ホ) (ハ) 図と着脱自在のエダス止め具 (7 a b) のスナップ部を有するスナップサルカンを道糸にセットした図。 (ヘ) 別 A タイプの例図。弾性性状を有する樹脂を主材とするエダス止め具 (8 a) の樹脂に軟体金属 (アルミニウム・真鍮・ステンレス) をインサート成形し、スナップサルカンから係止具に至るエダス (8 a b) と着脱自在のエダス止め具 (7 a b) とを、1 体に構成したイメージ図、 (ト) 別 B タイプの弾性ロック部の例図。弾性の凸を／弾性の凹もしくは弾性の凸／貫通穴 (R k-2) を組み合わせた、ロック機構の K-K 断面イメージ図

【図 6】 (イ) スナップサルカンから係止具に至るエダス (8 a b) と着脱自在のエダス止め具 (7 a b) の一体型で中ゴマを持つ 8 a-12 のタイプ図。 (ロ) 同上エダス着脱具を道糸に着脱出来る状態図。 (ハ) 中ゴマを、道糸を着脱出来る位置に回したエダス止め部分の拡大図。 (ホ) 同上エダス着脱部 G-G 断面図。

【図 7】 (イ) エダス着脱部を線材で構成した 8 a-4 の装着手順図。 (ロ) エダス着脱部を線材で構成したエダス部 8 a-4 タイプ図。 (ハ) エダス着脱部を線材で構成したエダス部 8 a-5 タイプ図。 (ホ-1) エダス着脱部を線材で構成した 8 a-6 のタイプ部分断面図。 (ホ-1~3) エダス着脱部を線材で構成した 8 a-6 タイプの道糸着脱操作要領 図

【図 8】 道糸通糸穴 (H) の側方に、道糸装入間隙部を設け、間隙部に弾性部 (D) を設けた着脱自在のエダス止め具 (7 a) と、スナップ部を有する接続具から係止具に至るエダス (8 a b) とで構成した、8 a-2 タイプの玉体を、円板体に代えて設けた、円板体の 8 a-2 タイプ図。 * 同上図の道糸通糸穴 (H) の側方に、道糸装入間隙部を設け、間隙部に弾性部 (D) を持つ、部分の H, S 詳細図。

【図 9】 (イ) 着脱自在のエダス止め具 (7 a b) とスナップ部を有する接続具から係止具に至るエダス (8 a b) とで構成した、8 a-1 タイプ図。 (ロ) 同上着脱自在のエダス止め具 (7 a b) の A-A・B-B 断面図。 (ハ) 着脱自在のエダス止め具 (7 a b) とスナップ部を有する接続具から係止具に至るエダス (8 a b) とで構成した、8 a-2 タイプ図。 (ホ-1) 同上着脱自在のエダス止め具 (7 a b) の弾性部 (D) を持つタイプの C-C・D-D 断面図。 (ホ-2) 同上着脱自在のエダス止め具 (7 a b) の弾性リップ部を持たないタイプの C-C・E-E 断面図。

【図 10】 (イ) エダス (8) 全体図。 (ロ) 同上に揺動具 (Y D) を取り付けた図

【図 11】 (イ) エダス着脱部に接続している錘の、両端外径部を小径としたテーパーを設けた (8 e) 錘。一部断面図 (ロ) エダス着脱部に接続している錘の、両端内径部を大径としたテーパー (T P H-2) を設けた (8 e-2) 錘。一部断面図

【図 12】 (イ) ウレタンゴム製の浮き止め (6) ・エダス止め体 (7) 取り付け要領図。 (ロ) 同上を 2 回巻きつけた図。 (ハ) 浮き止め (6) の完成図。

(ホ) (ハ) の (6) を更にもう一度 2 本を一緒に巻きつける要領図。 (

10

20

30

40

50

へ) (ホ)の状態からきつく締めた、エダス止め体(7)の完成図。(ト)略ラグビーボール状の弾性体製で、中心の穴に細いワイヤーが入った、弾性体製浮き止めの取り付け要領図で、道糸の端部から細いワイヤーの輪内に道糸を入れた図。(チ)(ト)から細いワイヤーを引っ張り、弾性体製浮き止めを道糸に通した図。(リ)細いワイヤーを道糸から引き抜き、浮き止め・エダス止めの、セット位置に移動させる図。(ヌ)木綿糸・化繊糸で、道糸に浮き止め・エダス止めとする、巻きつけ要領図。(ル)(ヌ)の完成図。(ヌ)木綿糸・化繊糸で、道糸に浮き止め・エダス止めとする、巻きつけ要領図。(ル)(ヌ)の完成図。

【図13】(a)道糸(10)の先端部に底物魚を釣る、天秤と錘とハリスと針を有する底物魚釣り仕掛け(1)を取り付け、エダス(8)を付けない状態で水中に投入した図。

(b)(a)に、浮き止め(6)、しもり(5)、浮き(4)、しもり(3)、をプラスして、エダス(8)を付けない状態で水中に投入した図。(c)竿(11)を道糸(10)に手が届く位置に(倒)し、エダス(8)と生き餌(8d)を取りつけた図。

【図14】(a)図13(a)の状態にエダス(8)を付け、水中に投入し、道糸を張って魚信を待つ釣法の概略全体図である。(b)図13(b)の状態にエダス(8)を付け、水中に投入し、道糸を張って魚信を待つ釣法の概略全体図である。

【発明を実施するための形態】

【0011】

線材体を主材とした物及び、組み付け作業が中駒と線材体を組み付けるだけの、組み付け工数を少なくした、8a-4, 8a-5, 8a-6, 8a-12をベースにした物が、コスト面から、推奨出来る形態である。

【0012】

実施するための形態として、組み着けは購入者にCD・DVD・BD等で解説し、手順書として添付する方法もあるし、

【0013】

エダス(8)か、エダスの着脱自在具(8a)のみを、部品として販売するのが好ましい方法である。

【実施例】

【0014】

図面に於けるそれぞれの寸法関係は、重要部分は拡大し、詳細が解り難いところは誇張している、また広範囲部分、又は本願発明で重要度の低い部分を、記載する時は縮小している、従って図面間及び図面内の寸法は比例していないし、実寸、縮尺寸法ではない。

又線間の間隔が狭い場合スキンの段階で黒く太く1本の線に成り易いので、線間の間隔を広げたり、1本の線で書いていたりしている。

更に本願発明の根幹(主要)機構以外部に付いては、図面間で省略している部分もある。

【0015】

図13の説明をすると上記底物魚釣り仕掛け(1)道糸(10)の先端部に取り付け、上記底物魚釣り仕掛け(1)から投げ竿(11)先方向に向かって、道糸(10)の道糸軸線方向に調節可能に固定されたエダス止め体(7)を備えた釣り具を用いて、上記底物魚釣り仕掛け(1)の先端部の針(1c)に底物魚釣り餌(1d)を付け、投げ竿で水中に投入(エダス部を付けない状態で海中に投入)した図{図13(a)}であり、又上記底物魚釣り仕掛け(1)から上記エダス止め体(7)間に、浮き止め(6)、しもり(5)、浮き(4)、しもり(3)をプラスした物に、エダス(8)を付けない状態で海中に投入した図{図13(b)}であり、次に、投げ竿を竿の先端部分の道糸に手が届く位置に(倒)し、投げ竿(11)の先端部より前方の道糸を取り、着脱自在具(8a)とより戻し(Y)とエダス用錘(8e)と絡み止めパイプ(8f)と係止具(8c)を有するエダス(8)を取りつけ、エダス先端部の係止具に上物釣りの餌(8d)を掛け、水中に降ろす前段階の図{図13(c)}であり、

図14の説明をすると次に上記エダス(8)を水中に降ろし、竿を立て道糸が張るまで

ールを巻き、竿掛け竿保持具に置き竿とした図 {図 1 4 (a、)} である。

図 1 4 (b) は上記底物魚釣り仕掛 (1) から上記エダス止め体 (7) 間に、しもり (3) 浮き (4)、しもり (5)、浮き止め (6)、をプラスした物に、上記エダス (8) を海中に降ろし、竿を立て道糸が張るまでリールを巻き、竿掛け竿保持具に置き竿とした図である。

【0016】

(3) のしもりは、生餌のさかなのあがきの力で破断しない物で有れば特に限定しない

【0017】

(4) の浮きは、道糸を海底から魚道と思う水深に浮かす為の物で有れば、現有する先行技術として公開、もしくは一般に販売されているもので良いが、(浮きは、付けなくても釣れることは釣れるが、浮きを付けない場合、道糸は海底から竿先まで海底方向の弧をえがくのに対して、浮きを付けると、道糸は海底から浮きで海面方向に上がった位置から竿先まで海底方向の弧をえがくので、エダス (8) の深さ方向の柵と岸壁からの距離が変わり、上物魚の釣果は向上するが、底物魚の当たりが判り難くなるのが欠点で、付けるか付けないかの判断は、底物魚の当たりが強い魚を狙うかどうかで判断するのが良い)。

【0018】

(5) のしもりは道糸の太さに適合した市販品で良く、しもり (5) が浮き止め (6) で止まりうき (4) が止まり浮きの上下動がスムーズにいくもので有れば特に限定はしない。

【0019】

(6) 浮き止め (図 1 2) は、色々なものが市販されているが、海面から数m位の位置になるので、道糸の途中での着脱自在でエダス止め体 (7) と共用出来るものを使用すれば良い。

浮き (4) を、付けない時、しもり (5)、浮き止め (6)、は不要となる

【0020】

(7) のエダス止め体の中の 1 例であるが (図 1 2 イ～ヘ又はヌ～ル) は浮き止め (6)、と同様に、道糸の途中で取りつけられ弾性性状のある物 (図 1 2 イ～ヘ) で輪ゴムの様なリング状で、何回でも道糸に潜らせることで、道糸の直径の 2～3 倍にエダス止めの直径を自在に設定出来る物が好ましい。

図 1 2 の (ト～リ) は浮き止め (6)、として市販されている物で輪を持つ線体 (6 b) にフットボール状の弾性体 (6 a) がセットしてある物で、図 1 2 の (ト) は道糸の端部を前記線体の輪 (6 b) に通し、線体を引き、前記弾性体を道糸に移し替え (チ)、セットしたい位置に移動させ (リ) の状態にする浮き止めであるが、道糸の端部からセットする事がこの仕掛けに使用するのには問題である。

図 1 2 の (ヌ～ル) は撚ってある糸体を (ヌの様に) 結べば (ル) の様に成り、このタイプの物は糸体の太さを変えるか (ル) の状態の上に、更に (ヌ) の様に結び重ねれば道糸の直径の 2～3 倍に直径を自在に出来、道糸の途中で取りつけられるが操作性の問題で弾性性状のある輪ゴムの様なリング状の物の方が好ましい。

【0021】

(8) のエダスはこの仕掛けを実現可能にし、かつ、底物魚と上物魚を一本の投げ竿で狙える釣法にし得た部分であり、上記エダス (8) は着脱自在具 (8 a) と、エダス錘 (8 e) と絡み止めパイプ (8 f) と、係止具 (8 c) とハリス (8 b-1) を主構成部品とし、
発明が解決しようとする課題を、解決するキーポイントとなった部分なので、エダス (8)、を分割して記述する。

【0022】

(8 a) この部分がこの釣りで、底物魚と上物魚を一本の投げ竿で狙える釣法にし得た部分であり、それぞれのパーツは市販されていて、それに少しずつの発明を組み合わせ (積み重ね) て、新しい機能をもたらした物で、代表となる部品を図示するが、道糸の通る位置・ストッパーの位置・長さ・大きさは、釣り具がわかる人ならその図を見て、簡単に変

10

20

30

40

50

更出来る部分の記載は省き代表例で記載している。

【0023】

第一の発明は仕掛けを投げ竿（11）で投入した道糸（10）に取り付けるエダス（8）のエダス着脱自在具（8a）であり、前記エダスはエダス着脱自在具と、より戻し（Y）と、ハリス（8b-1）と、上記エダスの先端部に取り付けた係止具（8c）をもつて、主構成としており、

上記エダス着脱自在具には、道糸（10）への着脱自在部と道糸通糸部（H）を設けており、

上記道糸にはエダス止め体（7）を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具（8a）を有するエダスは、道糸の上記エダス止め体（7）から海表面間を遊動自在に係止する物であり、

上記エダス着脱自在具は道糸着脱構造と道糸通糸部（H）を有する玉体 {もしくは円盤体（Za）} で構成され、

上記道糸着脱構造又は道糸通糸部（H）を玉体 {もしくは円盤体（Za）} の略中心より偏芯させて設けており、

上記道糸通糸部（H）から道糸が抜け出ても上記エダス着脱自在具で道糸は係止される構造にしておる事を特徴とする、エダスのエダス着脱自在具であり。

上記玉体の外周部であって、スナップ部（Sa-4・Sb-4）・（Sa-2・Sb-2）を有する線材体を主材とする部材のスナップ部（Sb-4・Sb-2）の線材との、接点上部に道糸を挿入する凹部を設け、前記線材体を主材とする部材のスナップ部（Sa-2・Sb-2）・（Sa-4・Sb-4）を開閉により道糸を挿入し、

上記玉体の外周部の線材との、接点上部に道糸を挿入する凹部を設け、前記線材体を主材とする部材のスナップ部（Sa-2・Sb-2）・（Sa-4・Sb-4）の開口により道糸を挿入し、更に前記玉体（Z）の外周部の接点上部の凹部（K）と、上記凹部の直近の下部に生成された、前記線材体と玉体（Z）の間の間隙（S）から上記凹部に道糸を挿入し道糸に係止する、道糸通糸部（H）として設けた物で、上記凹部から道糸が抜け出ても前記線材体を主材とする部材のスナップ部（Sa-2・Sb-2）・（Sa-4・Sb-4）を開口しない限り前記線材体を主材とする部材内に道糸は係止される構造で有る。

上記スナップ部（Sb-2・Sb-4）の閉止により、前記道糸を挿入しうる間隙（S）が閉じ、道糸（10）が通る軸線方向の穴（凹部、H）からの道糸（10）の出し入れを、ロックする構造を設けた事を特徴とする着脱自在具（8a-8・8a-10）であり、更に上記道糸通糸穴から道糸が抜け出ても上記エダス着脱自在具で道糸は係止される構造は、上記凹部から道糸が抜け出ても前記線材体を主材とする部材のスナップ部（Sa-上記スナップ部（Sb-2・Sb-4）を開口しない限り、上記エダス着脱自在具内で道糸は係止され、掛った魚は逃がさない構造である。

着脱自在具（8a-10）{図4・（ロ-1）・（ロ-2）}は、前記着脱自在具（8a-8）のスナップサルカン部が線材体が変わったのみで、エダス着脱自在具の道糸への着脱要領は同じなので省略する。

上記記載は略球形体としているが、エダス止め体（7）で、エダス着脱自在部（8a）を有するエダス（8）部が、止まる機能を有する物なら、略球形体に拘らず、例えば板体・円板体・円盤体・4角、6角等多角形の立方体や、略楕円形を含む円弧を持つ形状で有っても良い。

図2は上記着脱自在具（8a-8、8a-10）の玉体を円板体に替えた物で、上記略球形体に拘らず、例えば板体・円板体・円盤体・4角、6角等多角形の立方体や、略楕円形を含む円弧を持つ形状で有っても、作れる事を図で表した物である。

図3は上記着脱自在具（8a-8、8a-10）の玉体を6角形の立方体に替えた物である。

【0024】

第二の発明は仕掛けを投げ竿（11）で投入した道糸（10）に取り付ける上記エダス（

8)のエダス着脱自在具(8a)であり、前記エダスはエダス着脱自在具と、より戻し(Y)と、ハリス(8b-1)と、上記エダスの先端部に取り付けた係止具(8c)をもつて、主構成としており、

上記エダス着脱自在具には、道糸への着脱自在部と道糸通糸部(H)を設けており、

上記道糸にはエダス止め体(7)を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具は上記エダス止め体から海表面間を遊動自在に係止する物であり、

更にエダス着脱自在具(8a)は上記道糸通糸部(H)から道糸(10)が抜け出ても道糸に係止出来る構造にしており、

上記エダス着脱自在具は線材体を主材とした事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具であり、

【0025】

スナップ(Sa・Sb)部を有する線材体にエダス止め体(7)で止め得るリング穴部(H)を設け、前記リング穴部には道糸が貫通可能な間隙(S)を設けた、ことを特徴とするエダス着脱自在具(8a-4・8a-5・8a-6・8a-9)であって、

上記エダス着脱自在具(8a)の、上記道糸通糸部(H)から道糸(10)が抜け出ても道糸に係止出来る構造は道糸(10)が抜け出ても上記エダス着脱自在具(8a)のスナップ部を有する線材体の接続具内で係止される構造に道糸挿入口の間隙(S)を設けているからで有る。

図7はエダス(8)の着脱自在具(8a)のエダス止め穴(H)をストッパー付スナップサルカンのスナップ線材部(81-2)の線材を内側に1回転させて設けた物で(図7、イ、ロ)、図7(イ)は(ロ)に記載のエダス着脱自在具(8a-4)の装着手順を記載した物で、(a)はスナップ部を閉じている図、(b)はスナップ部を開いて道糸の一方(10-1)と道糸の他方(10-2)の中間部をスナップの開口部よりスナップの内部に通した図、(c)は線材をスナップの内側に1回転させて設けたエダス止め穴(H)部分の下端部(図面で見ても)迄開口部に続く線材に沿って押し込んだ図、(d)は(c)で押し込んだ道糸の一方(10-1)を下方に(図面で見ても)引き(e)で下方に(図面で見ても)引いた道糸の一方(10-1)を開口部よりスナップの外部に出し、(f)で道糸の一方(10-1)と道糸の他方(10-2)をスナップの開口部を閉じ直線に成るようにすると、(a)の向きと逆方向に反転してエダス止め穴(H)に道糸(10)が入り、竿の先端方向の水面部からエダス止め体(7)、の間をスライド出来るようになる(図7、ロの状態)。

道糸から前記エダス着脱自在具(8a-4)を取り外すのは前述手順の逆によれば良い。

【0026】

図7(ハ)は図7(イ)又は(ロ)に記載の、線材をスナップの内側に1回転させて設けたエダス止め穴(H)部分を、スナップの外側に1回転させて設けた物で、{エダス着脱自在具(8a-5)}着脱手順は前段落に記載の要領に順じているので、記載を省略する。

【0027】

エダス(8)の着脱自在具部(8a-6)であって、スナップ(Sb-5)部を有する線材体にエダス止め体(7)で止め得るリング穴部(H)を設け、前記リング穴部には道糸が貫通可能な間隙(S)を設け、前記線材体の外側に、スナップ(Sb-5)部を受ける受け穴(Sa-5)部を有する略楕円筒(8a-61)を設け、前記線材体に設けたエダス止め穴(H)の線材下部を前記略楕円筒の上下動の上端ストッパーとし、下端ストッパー(8a-62)をスナップ(Sb-5)部を有する線材体に設けた物で、

図7(ホ-1)は略楕円筒(8a-61)のスナップ(Sb-5)部を受ける受け穴(Sa-5)部が、スナップ(Sb-5)部に嵌まった状態図で、前記下端ストッパー(8a-62)の凸部を両側から内側に押えて略楕円筒(8a-61)を下方方向に動かすと、スナップ受け穴(Sa-5)部からスナップ(Sb-5)部が外れ、略楕円筒(8a-61)上端部と線材端部との間に出来た道糸(10)が入り得る開口部から道糸(10)を入れ、その道糸(10)を線材体に設けた貫通可能な間隙(S)からエダス止め穴(H)に

10

20

30

40

50

挿入し（ホー２）、略楕円筒（８a－６１）を上端ストッパー〔エダス止め穴（H）を構成する線材下部〕迄上げるとスナップ（Sb－５）部とスナップ部受け穴（Sa－５）部が嵌まりロック状態となる（ホー３）。

【００２８】

第三の発明は仕掛けを投げ竿で投げた道糸（１０）に取り付けるエダス（８）であり、
上記エダスはエダス着脱自在具部（８a）と錘（８e）とより戻し（Y）とハリス（８b－１）と先端部に取り付ける釣り針（８c）を主構成としており、
上記エダス着脱自在具は線材体と、道糸通糸穴（H）と道糸着脱構造を有する中駒（８a－p）で構成されており、
上記道糸通糸穴から道糸が抜け出ても上記エダス着脱自在具で道糸は係止される構造にしておる事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具（８a－１２）を提供する。

10

【００２９】

エダス（８）の着脱自在具（８a－１２）は、スナップ（Sa－６、Sb－６）部を有する線材体と、円周外壁部に凹部を有し、かつ、端面に凹凸部（M－２）を有する略円板の中駒（８a－p）を設け、前記線材体は、中駒（８a－p）に設けた円周外壁部の凹部に嵌入して中駒を回動自在に保持し、前記略円板形状の中駒には中心部貫通穴（H）を有し、略円板体側面より上記貫通穴に接続するスリット（w・割れ目）を有し、上記スリットには略V字状の案内部を有し、案内部奥に道糸が貫通可能な間隙（S）を形成した、ことを特徴とするエダス着脱自在具（８a－１２）であって、
スナップ（Sb－６）部を内側に押えてスナップ（Sb－６）部を開口し端面に凹凸部（M－２）を有する略円板体の中駒（８a－p）のスリット（w・割れ目）部が真下の線材体くびれ部に位置する様に中駒を回動させ、道糸（１０）を前記スナップ（Sb－６）部の開口部から内側に入れ、更にスリット案内部奥の間隙（S）から中心部貫通穴（H）に挿入し、中駒を回動させ〔端面に凹凸部（M－２）を有している〕（図6、ロ）スナップ（Sa－６、Sb－６）部を係合閉止し、線材体の弾性力で中駒の回動をロックする（図6・イ）構造である。

20

【００３０】

エダスの着脱自在具の８a－２は、仕掛けを投げ竿で投げた道糸（１０）に取り付けるエダス（８）であり、
上記エダスはエダス着脱自在具部（８a）と錘（８e）とより戻し（Y）とハリス（８b－１）と先端部に取り付ける釣り針（８c）を主構成としており、
上記エダス着脱自在具は、道糸に着脱自在な構造と道糸通糸穴（H）を有する円板体もしくは玉体の着脱自在のエダス止め具（７ab）と、スナップ部を有する線材体を主材とする部材から係止具に至るエダス（８ab）とで、構成されており、
上記着脱自在のエダス止め具（７ab）の道糸着脱構造は、円板体もしくは玉体の道糸通糸穴（H）に接続する割れ目（W）の位置を、上記道糸通糸穴（H）の側方向に設け、前記穴（H）に貫通させ、穴（H）直近の間隙（S）部に弾性部（D）を設けた事の特徴とし、
更に上記着脱自在のエダス止め具（７ab）の道糸通糸穴から道糸が抜け出ても、上記エダス着脱自在具で道糸は係止されておる事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具。

30

40

【００３１】

図8、9の上記着脱自在のエダス止め具（７ab）は割れ目の位置を軸線方向穴（H）の側方向に設け、前記穴（H）に貫通させ、穴（H）直近の間隙（S）部に弾性部（D）を設けた物が図9（ハ）と（ホー１）の（C－C断面図）・（D－D断面図）に記載の、エダスの着脱自在具の８a－２であり、
更にエダスの着脱自在具の８a－２の上記着脱自在のエダス止め具（７ab）を円板体で記載しておるのが図8で、円板体の円周部から一箇所の略中心部貫通穴を設け、略球形側面より道糸（１０）が通る軸線方向の穴（H）迄の割れ目（スリット、W）を設け、前記割れ目（スリット、W）には略V字状の案内部を有し、案内部奥に道糸が貫通可能な間隙（S）を上記道糸通糸穴（H）の側方向に設け上記道糸通糸穴（H）に接続し

50

て、

上記道糸通糸穴（H）と案内内部奥の間隙（S）との間に弾性部を設けた物である。

【0032】

着脱自在のエダス止め具（7 a b）の図 9（イ）の 8 a-1 は、略球形状体の玉体（Z）もしくは円板体（Z a）に一箇所の略中心部貫通穴 {道糸（10）が通る軸線方向の穴（H）} を有し、略球形状体側面より道糸（10）が通る軸線方向の穴（H）迄の割れ目（スリット、W）を設け、前記割れ目（スリット、W）には略 V 字状の案内内部を有し、案内内部奥に道糸が貫通可能な間隙（S）を形成し、割れ目の入り口にはリップ部（T）を設け割れ目位置を認識し易くし、更に着脱時に {図 9（ロ）の A-A 断面図} 着脱を容易にする弾性部（D）と玉体（Z）を指でつまみ易くする、略平坦部を前記略球形状体の玉体（Z）の両側に設け、更に魚か掛った時エダス止め体（7）を動き難くするテーパー（TPH）を、道糸（10）が通る軸線方向の穴（H）のエダス止め体（7）側（もしくは両側）に設け、{図 9（ロ）の B-B 断面図}、道糸に前記 8 a-1 を嵌め込み、更にストッパー付スナップサルカン {8 a-1 ~ 3、8 a-1 3 が通り抜けないもの、（81）} であるが、道糸に着脱自在に出来るものなら良く、ストッパー付スナップサルカンには拘らないが（Y のより戻し機能がついたものがより好ましい）、以後のストッパー付スナップサルカンの記載は同じ意味を含んでいるので、此の括弧内の再記載は省略する。} から係止具に至るエダス（8 a b）を別体で後続して設け、竿を倒してストッパー付スナップサルカンのスナップ部の開閉により {図 13（a, b）の状態に} 装着する着脱自在具（8 a）。

略球形状体の玉体（Z）は、一例として玉で記載しているが形状には拘らなく、板状体・円板体・円盤体・四角・八角等の多角形の立方体や略楕円形を含む丸みを持つ形状の物でも、エダス止め体（7）で、エダス着脱自在具（8 a）を有するエダス（8）が、止まる機能を有する物なら、すべて本願発明に含む。

【0033】

前述の割れ目の入り口のリップ部（T）は設け無くても、着脱を容易にする弾性部 D と略球形状体の玉体（Z）の両端に指でつまみ易くする略平坦部 {図 9（ロ）の A-A 断面図} を設け無くても良く、略平坦部は操作性を良くする物であり、着脱を容易にする弾性部（D）を設けない場合は、道糸の弾性力（道糸をつぶす方向の力）での装着であり道糸の太さと道糸（10）を嵌め込む割れ目の軸線方向の穴（H）直近の間隙（S）の設定が狭くなる、言い換えれば道糸（10）の直径により適合する略球形状体の玉体（Z）もしくは円板体（Z a）の種類が多くなる。

【0034】

前項に記載のリップ部（T）と

弾性部（D）と略球形状体の玉体（Z）の両端に指でつまみ易くする略平坦部を設けていないのが、図 9（ハ）と（ホ-2）の（C-C 断面図）・（E-E 断面図）に記載の、エダスの着脱自在具の 8 a-3 で、割れ目の位置を軸線方向穴（H）の側方向に設け、前記穴（H）に貫通させ、穴（H）直近の間隙（S）部に弾性部（D）を設けた物が図 9（ハ）と（ホ-1）の（C-C 断面図）・（D-D 断面図）に記載の、エダスの着脱自在具の 8 a-2 であり、この図 {図 9（ハ）と（ホ-2）の（C-C 断面図）・（E-E 断面図）、図 9（ハ）と（ホ-1）の（C-C 断面図）・（D-D 断面図）} には魚か掛った時エダス止め体（7）、を締めこむ作用をするテーパー（TPH）を道糸（10）が通る軸線方向の穴（H）のエダス止め体（7）側・（もしくは両側）に設けていないが、前記テーパー（TPH）を設けることも本願発明に入っている。

【0035】

前記略球形状体の玉体（Z）もしくは円板体（Z a）の道糸（10）が通る軸線方向の穴（H）の穴芯の位置を変えて（偏芯させる）穴芯と略球形状体の玉体（Z）の外壁部との肉厚を薄くする方向に変える事でも、又は材質の弾性度を変える事でも対応でき本願発明に含む。

本願発明に記載している事項は全エダス（8）構造の派生例として適用する {但し金属線

材のみの使用、線材部が弾性部（D）の働きをしている場合等は除く}

【0036】

第四の発明の上記エダス着脱自在具には、道糸への着脱自在部と道糸通糸部（H）を設けており、

上記道糸にはエダス止め体（7）を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具は上記エダス止め体から海表面間を遊動自在に係止する物であり、

上記エダス着脱自在具は樹脂を主材とした略球形体（略球形体に拘らず、例えば板体・円板体・円盤体・4角、6角等多角形の立方体や、略楕円形を含む円弧を持つ形状）と線材体とで構成した事の特徴とする、エダスのエダス着脱自在具であり、

前記線材体はスナップサルカンを始めとするスナップを有する接続具であり、上記樹脂を主材とした略球形体に上記接続具の一部をインサート加工したものである。

更にエダス着脱自在具（8a）は上記道糸通糸部（H）から道糸（10）が抜け出てもエダス着脱自在具（8a）内に道糸に係止出来る構造にしており、

このエダス着脱自在具（8a-7・8a-11）、の内8a-7を代表例とした、道糸への着脱方法は（図7）、閉じているスナップサルカンのSb-4を内側方向に押してSa-4からSb-4を外して（イ-a）からスナップ部が開いた（イ-b）の様に、前記開いたスナップ部から中に入れ、略球体部に設けている間隙（S）から道糸（10）を嵌め込み（イ-a）の状態に戻すことで、道糸へ装着出来る、道糸から外す時は、前述の逆方法で行う。8a-11の道糸への着脱方法も、同じ要領なので省略する。

【0037】

着脱自在のエダス止め具（7ab）は上記道糸通糸部（H）から道糸（10）が抜け出てもエダス着脱自在具（8a）内に道糸に係止出来る構造にしており、

上記エダス着脱自在具は樹脂を主材とした円板体（例えば板体・円盤体・4角、6角等多角形の立方体や、略楕円形を含む円弧を持つ形状を含む）エダス（8）の着脱自在具部（8a-13）は弾性性状を有する樹脂を主材とする着脱自在部（8a）は無数に考えられるがその1例としての物であって、弾性性状を有する円板体の概略中心部に道糸が挿通可能で、かつ、エダス止め体（7）で止め得る穴（H）を設け、一方の円板体側面より前記挿通可能な穴（H）迄の切断線を設け切断し、前記切断線を基準とし右若しくは左に少なくとも90°（最大で180°）に切り割り、他方の円板体側面に一部をヒンジ部として切り割らずに残した切り割り片を設け、前記切り割り片と切り割り片の残片とを繋げて設け、前記一方の円板体（切り割り片の残片）側面に弾性の凸（Rk-1）を、他方の円板体（切り割り片）側面に弾性の凸を／弾性の凹もしくは弾性の凸／貫通穴（Rk-2）を組み合わせてロック機構として設けた（図5・イ・ロ・ハ）、弾性性状を有する樹脂を主材とした物で、更に前記着脱自在具部（8a-13）の竿先端部（9）側にスナップサルカンから係止具に至るエダス（8ab）を別体で後続して設け、

前記8a-13の前記挿通可能な穴（H）に道糸を嵌め込みロック機構{（Rk-1・Rk-2a・Rk-2b）と（Rk-2・Rk-1a・Rk-1b）}でロックし、更にストッパー付スナップサルカン{8a-13が通り抜けないもの、（81）}から係止具（8c）に至るエダス部（8ab）を、竿を倒して、ストッパー付スナップサルカンのスナップ部の開閉により{図5（ホ）の状態に}装着する。

図5へ、は弾性性状を有する樹脂を主材とする着脱自在具部（8a）の樹脂に軟体金属体（アルミニウム・真鍮・ステンレス及びそれらの撚り線等）をインサート成形しスナップサルカンから係止具に至るエダス（8）を一体化したイメージ図、図5トは弾性の凸を／弾性の凹もしくは弾性の凸／貫通穴（Rk-2）を組み合わせたロック機構のイメージ図

【0038】

8b-1はエダス（8）の着脱自在具部（8a-1～8a-13）と、エダスの先端部の係止具（8c）間を連結するハリス（図10）であつて、ハリスとして使用されている物には、

1. ナイロン・特性として伸び率20%～45%あり、フック（釣り針）やサルカンと

の結束部の結束方法によっては大型魚が掛かり引き込む力で伸びて結束部が抜けるので使い慣れない人には推奨出来ない物。

2. フロロカーボン・最近の釣りでのハリスとしては一番普及しているもので、結束部強度ではPE（ポリエチレン ダイニーマ）に次ぐ強度を持ち更に水中での屈折率1.42と、水の屈折率1.33と近く水中では見えにくい素材である。

3. PE（ポリエチレン ダイニーマ）・現在市販されているラインとしては最強度の物であり、伸び率1.04で、釣りに持たすメリットは、感度（当たり等微妙な変化を伝え易い特性を持っている）の良さである、反面弱点としては、耐熱性で、耐熱温度が145℃と低く、低い摩擦熱で切れてしまうこと及びラインがしなやかで、絡みやすく、又一度絡むと解き難い事である、この釣法及び仕掛けでは、エダスのハリス（8b-1）をPEとするのは推奨し難い。

10

【0039】

図10はエダス（8）の詳細例図で道糸（10）に移動自在に係止する着脱自在具（8a-1から8a-13）からより戻し（Y）、エダス錘（8e）、絡み止めパイプ（8f）、係止具（8c）をハリス（8b-1）で連結したもの{図10（イ）}。

上記図10（イ）の絡み止めパイプ（8f）と係止具（8c）間に係止具（8c）を揺動もしくは回動（旋回）させる揺動具（YD）を設けたものが図10（ロ）であり、又潮流等の速さによってはガン玉錘（8e-1、B～4B程度）を付けるのも良い。

【0040】

第11図（イ）は道糸（10）に着脱自在部を有するエダス（8）の着脱自在具（8a）に接続する軸線方向に貫通穴を有する外形両端方向部を小径とした錘（8e）である、上記錘の外形両端方向部を小径とするのは絡みにくくする為であり、

20

この外形両端方向部を小径とした錘（8e、0.5～5号）はなくてもつれることは釣れるが、餌を付け水中に投入した時、錘を付けているとエダス（8）の着脱自在具部（8a）が深い方向に少しずつスライドし、この錘に接続している絡み止め（8f）が見えなくなり更に水面より棚に近い深さに餌を入れる効果があるので、好ましくはこの外形両端方向部を小径とした錘（8e）をつけるのが良い。

更に上記錘の内径の両端部を大径方向にテーパ（TPH-2）に追加すれば、錘の両端内径入り口部は鑄込み製造でのシャープなエッジが残っている場合が多々あるので、一方の入り口部はハリス（8b-1）の端部及び結束部をテーパ部で収納・固着して保護し、他方の入り口は絡み止め（8f）を挿入固着しハリス（8b-1）を保護して、糸切れと絡み対策になるので上物魚の対象魚をスズキとかブリ、大型さばの様な中・大型魚を狙う場合、好ましくはこの内径の両端部を大径方向にテーパ（TPH-2）に追加した錘（8e-2）第11図（ロ）をつけるのが良い。

30

【符号の説明】

【0041】

1, 底物釣り具

1a, 錘

1b-1, 底物釣り具のハリス

1c, 底物釣り具の係止具

40

1d, 底物釣り餌

1e, 底物釣り具の天秤

3, しもり

4, 浮き

5, しもり

6, 浮き止め

6a, フットボール型弾性体浮き止め

6b, フットボール型浮き止めの線体

6c, 弾性体輪ゴム状浮き止め

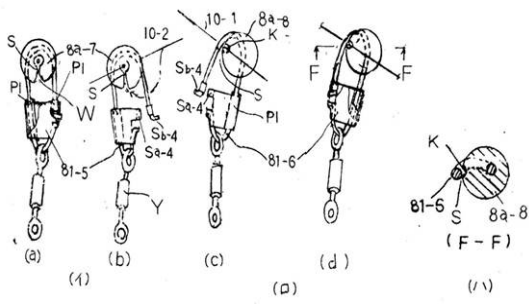
7, エダス止め体

50

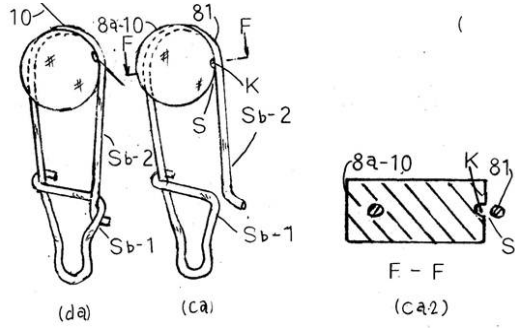
- 7 a, 弾性体輪ゴム状エダス止め
- 7 a b, エダス止め体で、止まる穴を有する着脱自在のエダス止め具
- 8, エダス及び 8、エダス体全体
- 8 a, エダス着脱自在具
- 8 1、スナップサルカン（よりフックに至るエダス体全体を表している場合もある）
- 8 1-2、 8 a-4 のスナップサルカンのスナップ線材体
- 8 1-3、 8 a-5 のスナップサルカンのスナップ線材体
- 8 a、 エダス着脱自在具
- 8 a-1。エダス止め体で、止まる穴を有する着脱自在のエダス止め具（7 a b）の玉体と、スナップ部を有するエダス着脱自在部で構成しているエダス着脱自在具で、玉体にスリット・V字案内部・道糸を貫通さす間隙・側面の平坦面・弾性部を設けた構成のもの。
- 8 a-2. 8 a-1 での、着脱自在のエダス止め具（7 a b）の玉体の弾性部と両側に略平坦部と弾性部を設けていない物と、エダス着脱自在部で構成しているエダス着脱自在具
- 8 a-3、8 a-2 のスリットを、エダス止め体で、止まる穴の側方に設けた着脱自在のエダス止め具（7 a b）の玉体とエダス着脱自在部で構成しているエダス着脱自在具
- 8 a-4、線材体部内側に線材体でエダス止め体を止め得る穴を構成したエダス着脱自在具
- 8 a-5、線材体部外側に線材体でエダス止め体を止め得る穴を構成したエダス着脱自在具
- 8 a-6、線材体と略楕円筒で構成したエダス着脱自在具
- 8 a-7、着脱自在のエダス止め具（7 a b）の玉体の 8 a-1 ~ 8 a-3 と線材体を主材とする部材を一体にしたエダス着脱自在具
- 8 a-8、8 a-7 で球形状の外面に凹部を設けたエダス着脱自在具
- 8 a-9、スナップ部、スナップ受け部を有する線材体で構成したエダス着脱自在具
- 8 a-10、8 a-8 のスナップ部、スナップ受け部を線材体で構成したエダス着脱自在具
- 8 a-10 a、8 a-10 の球形状を立方体で構成したエダス着脱自在具
- 8 a-11、8 a-7 のスナップ部、スナップ受け部を線材体で構成したエダス着脱自在具
- 8 a-12、エダス止め体で、止まる穴を有するエダス止め具の中駒体と・スナップ部、スナップ受け部を有する線材体で構成したエダス着脱自在具
- 8 a-13、エダス着脱自在部で弾性性状を有する樹脂を主材として成形された物の 1 例
- 8 a-61、エダス着脱自在具 8 a-6 の略楕円筒
- 8 a-62、エダス着脱自在具 8 a-6 の略楕円筒の下端ストッパーの、線材体の凸部
- 8 a-p、 8 a-12 の略円板形状の中駒体
- 8 a b, スナップ部を有する線材体から係止具に至るエダス。
- 8 b、 エダス部のハリス
- 8 b-1, エダス用ハリス
- 8 c, 上物釣り用係止具
- 8 d, 上物釣り用餌
- 8 e, エダス用錘
- 8 f, エダス用絡み止めパイプ
- 10, 道糸
- 11, 投げ竿
- 12, 竿掛け竿保持具
- 13, リール
- 8 1、 ストッパー付スナップサルカン（8 1-2, 8 1-3, 8 1-5, 8 1-6）
- D、 弾性部
- H、 エダス止め体で止まり得る穴
- J-1、 8 a-13 の樹脂の板体の切り割り片

J-1 a	J-1 に軟体金属をインサートした物の切り割り片	
J-2、	J-1 の残りの残片	
J-2 a	J-2 に軟体金属をインサートした切り割り片の残りの残片	
M-2、	エダス着脱自在具 8 a-1 2 の中ゴマ端面部の凸凹部	
L、	J-1, J-2 の接続ヒンジ部	
P	弾性パイプ	
P 1	、可塑性樹脂パイプ	
R k-1、	J-2 円板体円周外壁面部に設けた弾性（ロック機構）の凸	
R k-1 b、	R k-1 別タイプのイメージ体	
R k-2、	J-2 円板体円周外壁面部に設けた弾性（ロック機構）の凸・凹・貫通穴	10
R k-2 a	R k-1 別タイプのイメージ体	
R k-2 b	R k-1 別タイプのイメージ体	
S、	道糸が貫通可能な間隙	
S a、	スナップ受け部（側の線材体）	
S a-2、	8 b-1 0 の スナップ受け部	
S a-3、	8 b-1 1 の スナップ受け部	
S a-4、	8 b-4, 8 b-5, 8 b-7, 8 b-8 の スナップ受け部	
S a-5、	8 b-6 のスナップ受け部	
S a-6、	8 b-1 2 のスナップ受け部	
S b、	スナップ部（側の線材体）	20
S b-2、	8 a-1 0 の スナップ部	
S b-3、	8 a-1 1 の スナップ部	
S b-4、	8 a-4, 8 a-5, 8 a-7, 8 a-8 の スナップ部	
S b-5、	8 a-6 のスナップ部	
S b-6、	8 a-1 2 のスナップ部	
T、	略球状形状の <u>着脱自在のエダス止め具</u> （7 a b）の玉体の割れ目入り口のリップ部	
T P H、	エダス着脱自在部の道糸が通る穴の入り口部に設けた入り口側を大径とするテーパー穴	
T P H-2、	エダス着脱自在部のより戻し部に接続している錘に設けた、入り口側を大径とするテーパー穴	30
W	、スリット（割れ目）	
Y	、より戻し部（を有する物 Y で表現している物もあり）	
Z、	略球状形状の <u>着脱自在のエダス止め具</u> （7 a b）の玉体	

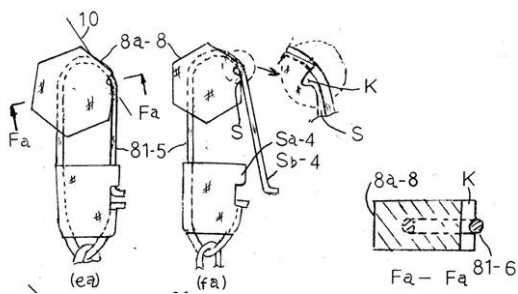
【図 1】



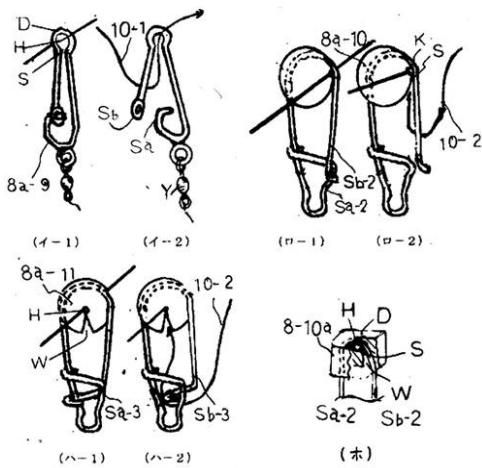
【図 2】



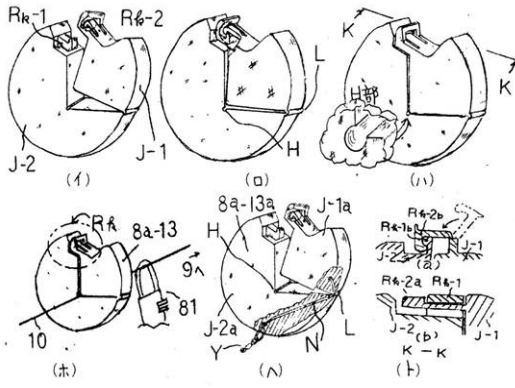
【図 3】



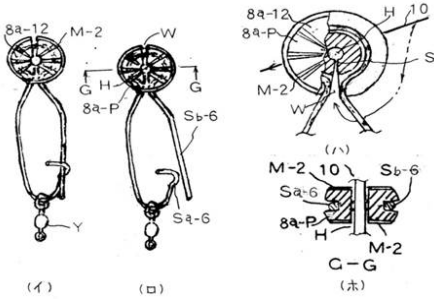
【図 4】



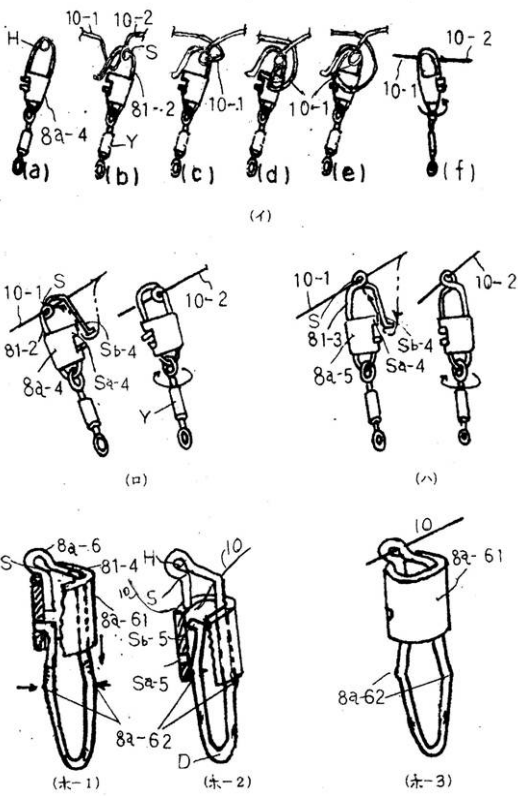
【図 5】



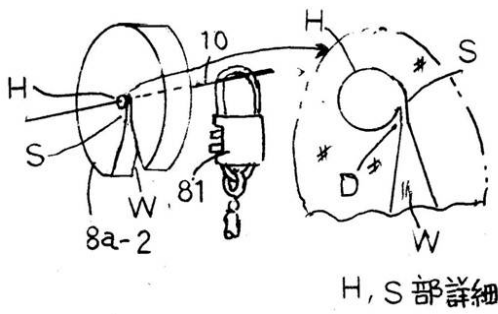
【図 6】



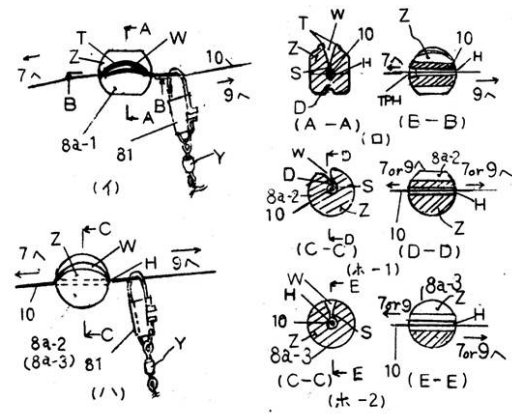
【図 7】



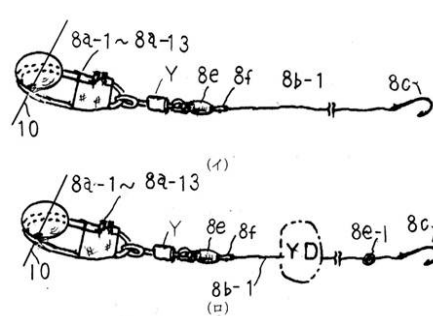
【図 8】



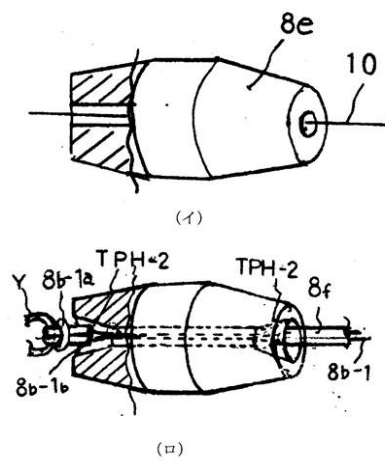
【図 9】



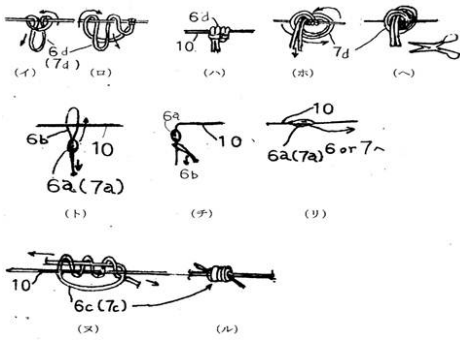
【図 10】



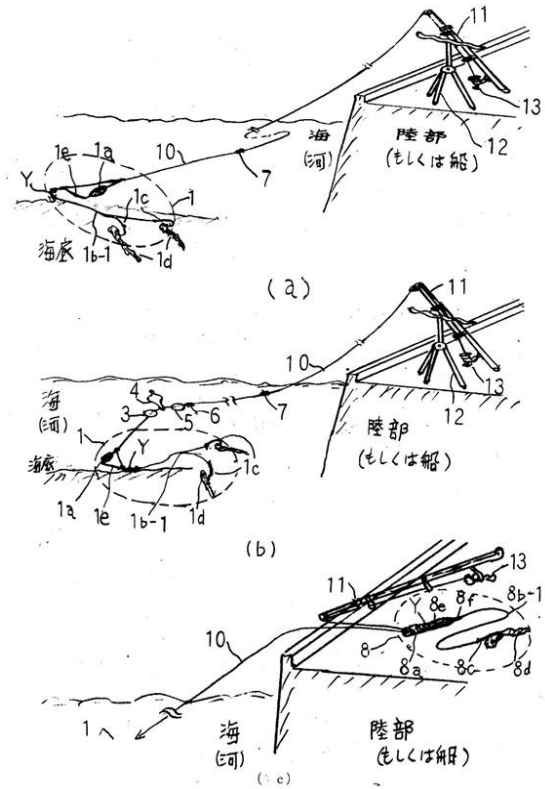
【図 11】



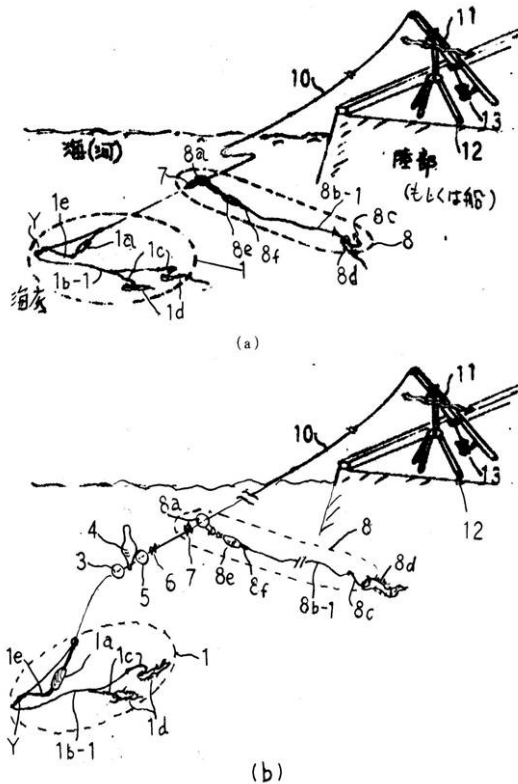
【図 1 2】



【図 1 3】



【図 1 4】



【手続補正書】

【提出日】平成26年1月22日(2014.1.22)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

第一の発明は、仕掛けを投げ竿（11）で投入した道糸（10）に取り付けるエダス（8）のエダス着脱自在具（8a）であり、前記エダスは、エダス着脱自在具（8a）とより戻し（Y）とハリス（8b-1）と先端部に取り付ける釣り針（8c）を主構成としており、

上記エダス着脱自在具には、道糸への着脱自在部と道糸通糸部（H）を設けており、

上記道糸には、エダス止め体（7）を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具（8a）有するエダスは、道糸の上記エダス止め体（7）から海表面間を遊動自在に係止する物であり、

上記エダス着脱自在具は、道糸着脱構造と道糸通糸部（H）を有する玉体（もしくは円盤体）で構成され、

上記道糸着脱構造又は道糸通糸部（H）を玉体（もしくは円盤体）の略中心より偏芯させて設けており、

上記道糸通糸穴から道糸が抜け出ても上記エダス着脱自在具で道糸は係止される構造にしておる事の特徴とする、

エダスのエダス着脱自在具を提供する。（実施例の8a-6、8a-8、8a-10、8a-10a）

第二の発明は、仕掛けを投げ竿（11）で投入した道糸（10）に取り付けるエダス（8）のエダス着脱自在具（8a）であり、前記エダスは、エダス着脱自在具（8a）と、より戻し（Y）と、ハリス（8b-1）と、先端部に取り付けた係止具（8c）をもって主

構成としており、

上記エダス着脱自在具には、道糸への着脱自在部と道糸通糸部（H）を設けており、

上記道糸には、エダス止め体（7）を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具（8a）は上記エダス止め体（7）から海表面間を遊動自在に係止する物であり、

更にエダス着脱自在具（8a）は上記道糸通糸部（H）から道糸（10）が

抜け出ても道糸に係止出来る構造にしており、

上記エダス着脱自在具は線材体を主材とした事の特徴とする、

エダスとエダス着脱自在具を提供する。（実施例の8a-4, 8a-5, 8a-6, 8a-9）

第三の発明は、仕掛けを投げ竿（11）で投げた道糸（10）に取り付けるエダス（8）であり、上記エダスはエダス着脱自在具（8a）と錘とより戻し（Y）とハリス（8b-1）と先端部に取り付ける釣り針（8c）を主構成としており、

上記エダス着脱自在具は線材体と、道糸通糸穴と道糸着脱構造を有する中駒（8a-p）で構成されており、

上記道糸通糸穴（H）から道糸（10）が抜け出ても上記エダス着脱自在具で道糸に係止される構造にしておる事の特徴とする、

エダスのエダス着脱自在具（8a-12）を提供する。

第四の発明は、仕掛けを投げ竿（11）で投入した道糸（10）に取り付けるエダス（8）のエダス着脱自在具（8a）であり、

前記エダスは、エダス着脱自在具（8a）と、より戻し（Y）と、ハリス（8b-1）と、先端部に取り付けた係止具（8c）をもって、主構成としており、

上記エダス着脱自在具には、道糸への着脱自在部と道糸通糸部（H）を設けており、

上記道糸には、エダス止め体（7）を道糸軸線方向に調節可能に固定されており、

上記エダス着脱自在具（8a）は上記エダス止め体（7）から海表面間を遊動自在に係止する物であり、

更にエダス着脱自在具（8a）は上記道糸通糸部（H）から道糸（10）が抜け出ても道糸に係止出来る構造にしておる事の特徴とする、

エダスのエダス着脱自在具を提供する。（実施例の8a-2, 8a-7, 8a-8, 8a-9, 8a-11, 8a-13）

上記エダス止め体（7）は道糸直径の2～3倍が好ましい、

したがって、上記エダス着脱自在具に設けている道糸通糸穴は、上記エダス止め体（7）で止め得る穴であり、本願に記載の全種類のエダス着脱自在具（8a）に適用する。

上記発明は出願時の技術常識から「特許N0, 5166623泳がせ釣り用具とその方法」の技術及び「本願の分割前の原出願である、特許N0, 5226893底物魚と上物魚を一本の投げ竿で狙える釣法及びその釣り具」の技術の「エダスのエダス（又は、枝ハリスと枝ハリス）着脱自在具」としてのみもっぱら使用されるものである。